

IOT・AIとネットワーキング

国際社会経済研究所（NIES）
グループ）主任研究員



松永
統行

このような柔軟なコンピューターの利用が情

報。プラットフォームサービスとして登場し、産業のサービス化と

3つの革新創出

情報技術は、現代社会の仕組みの中に、三つの革新を創出した。始まりはインターネットであり、これは情報伝播連鎖の革新である。電子メールは、情報をバケツリレーのように転送する連鎖的な仕組みの中を飛び交い、ウェブは、クリックすることで連鎖的につながる情報共有の仕組みとして、デジタル化による

二つ目は、インターネットクラウドであり、バックヤードで潜行的に進んだ情報空間の革新である。仮想化技術により、ネットワークでつながれたコンピューターが仮想空間上で柔軟に連係し運動するクラウドコンピューティングが進展し、コンピューターの計算

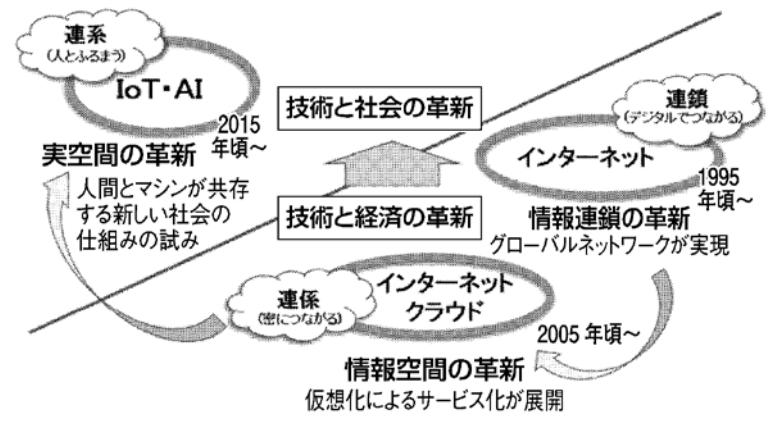
能力や記憶能力を自在に活用できるようになつた。手元のスマートフォンにデータを保有しなくても、クラウド側にデータを保存でき るようになつたのは、ネットワーキングされたコンピューターの資源であればあたかも自由に起因している。

種多様な仮想空間が世界中に出現した。さらに多くのモノとつながるIOT（モノのインターネット）の発想は、ネットワークの中に出現した膨大な数の仮想空間や仮想マシンにも拡大しながら多

分のマシンのように扱うこと)を容易にする仮想化技術の進展による。

生物のように

情報社会に起きた3つの革新



モノとつながり、環境とは次元の異なるた革新が広がろうとしている。環境を認知しながら、自律的に判断し、あたかも神経系をもつ生物のように振る舞う概念のシステムの摸索が始まっている。

私の試みが、実空間の革新に新規性をもたらす。人や生命を模倣したコンピューターシステムが次世代に向け構想され、仮想的な情報空間が実空間と積極的にインタラクション（相互作用）をする今まで無形のマシンが人と共存する新しい社会をデザインするという今までにはなかつた能力が、技術ばかりではなく社会に対しても求めら
れていて。（金曜日に掲載）

自律的に判断、実空間革新